

◇編集後記◇

平成 26 年度編集委員会が、堤 明純（北里大学）を新委員長、柴田英治（愛知医科大学）を副委員長とし、新規委嘱委員を含む 39 名（このほか海外編集委員 25 名）の体制で始動しました。オープンアクセスジャーナルの急速な広がりなど、関連諸雑誌との競争環境が激しくなる中で、Journal of Occupational Health 誌および産業衛生学雑誌を埋没させてしまわないために、これまでの両誌の伝統を保ちながらも、特色をいっそう明確化し、投稿者・査読者サービスを打ち出していくことを企画しています。とくに産業衛生学雑誌に関しては、柴田英治教授に直接担当をお願いし、力を注いでいくこととなりました。

新たな編集委員会では、編集委員の機能・権限を強化し、査読プロセスを迅速化するため、6つの専門領域からなるフィールドを設定し、フィールド内で査読のハンドリングを行うこととしました。設定する6つのフィールドは、メンタルヘルス/心理社会的要因 (Mental health / psychosocial factor)、化学物質ばく露/中毒学 (Toxicology)、物理的要因・人間工学 (Ergonomics)、産業保健活動/産業保健職 (Occupational practice /

occupational practitioner)、健康増進 (Health promotion)、および、疫学 (Epidemiology) からなり、論文が扱っているフィールドを、投稿時に選択していただくこととなります。より専門に近いフィールドでハンドルされることで、査読効率が質・量ともに向上することを期待しています。

産業衛生学雑誌は多くの機能を有していますが、さらに有用なプラットフォームとするべく、研究と実務を結ぶフォーラム、研究の実施方法から論文の書き方まで、といった新しい特集の導入を検討しています。前者については、生涯教育委員会で取りまとめられている GPS (Good Practice Samples) のアーカイブ化について議論しています。さらに、関連する外部のコンソーシアムとのコラボレーションも検討しています。

充実した紙面で、わが国の産業衛生学の発展に寄与したいと考えています。そのような雑誌は、しかし、会員の皆様と力を合わせてはじめて作り上げられるものと認識しています。会員の皆様からの積極的なご投稿と建設的なご意見を歓迎いたします。

(堤 明純)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：堤 明純（北里大）
副委員長：柴田英治（愛知医大）

編集委員：五十嵐千代（東京工科大）、市原 学（東京理科大）、梅津美香（岐阜県立看護大）、榎原 毅（名古屋市立大）、大神 明（産業医大）、影山隆之（大分看護大）、小島原典子（東京女子医大）、上島通浩（名古屋市立大）、萱場一則（埼玉大）、車谷典男（奈良医大）、近藤尚己（東京大）、榊原久孝（名古屋大）、佐々木美奈子（東京医療保健大）、島津明人（東京大）、須賀万智（東京慈恵医大）、杉森裕樹（大東文化大）、諏訪園靖（千葉大）、高橋 謙（産業医大）、高尾総司（岡山大）、田中 茂（十文字学園女子大）、玉腰暁子（北海道大）、中田光紀（産業医大）、中村裕之（金沢大）、錦戸典子（東海大）、西田和子（久留米大）、野見山哲生（信州大）、原田浩二（京都大）、平工雄介（三重大）、廣 尚典（産業医大）、藤野善久（産業医大）、堀口兵剛（北里大）、三宅達郎（京都市保健福祉局）、毛利一平（ひらの亀戸ひまわり診療所）、森岡郁晴（和歌山医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（岡山大）、大和 浩（産業医大）

客員編集委員：田中紀子（国立国際医療研究センター）、東 尚弘（東京大）、八幡勝也（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階
電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番